世界天文年へ向けてキックオフ！ 〜世界天文年2009キックオフシンポジウム開催報告

小 野 智 子

〈世界天文年2009日本委員会事務局・自然科学研究機構 国立天文台 天文情報センター 〒181–8588 東京都三鷹市大沢22–21–1〉

e-mail: tomoko.ono@nao.ac.jp

2009年まであと何日―カウントダウンを始めてからは，日々気忙しく過ごしてきている．そう，「世界天文年2009」が目前まで近づいているのだ．もっとも，この原稿が世に出る頃には本番に突入しているのだが．

世界天文年2009日本委員会（以下，日本委員会）では，この記念すべき年を盛り上げ，多くの人々に星空を見上げてもらい，宇宙や地球へ思いを馳せて欲しいと，前年の2008年からプレ企画を進めてきた．その一つが，「世界天文年2009キックオフシンポジウム」である．去る11月23日（祝），東京・台場の東京国際交流館・国際交流会議場を会場に，日本委員会の主催，天文教育普及研究会および国立天文台の後援により開催され，約160名の参加があった．

これまで，岡山での天文学会秋季年会の特別セッションや，国立天文台で開催の科学記者向けのレクチャーで紹介を行ったことはあったものの，一般向けのシンポジウムという形で，世界天文年とは何か，どういった取り組みがあるのかをお披露目する機会はこれが最初であった．

当日のプログラムは，前半は，日本委員会の海部宣男委員長および渡部潤一企画委員長による世界天文年の取り組みについての解説を，後半は，研究者，教員，ボランティア，など各立場のパネリストを迎えたディスカッションを行った．とくに，ディスカッションでは会場からも活発な意見があり，たいへん盛り上がった．聴衆は，世界天文年を楽しみたいという人から，私はこういったアピールをしたい，という人まで幅が広いのが特徴的で，皆の関心の高さが伺えた．

なお，このシンポジウムは，科学技術振興機構が2006年より開催する「サイエンスアゴラ」というワークショップの中の公募企画の一つとして開催された．サイエンスアゴラ自身，サイエンスコミュニケーションに携わる人々が集う場となっていることから，今回のシンポジウム参加者も，世界天文年を機に，天文や科学の伝道師として活動したいという志をもった人が多かったように思う．そう，400年前のガリレオのように．

参照：世界天文年2009
http://www.astronomy2009.jp/
サイエンスアゴラ
http://scienceportal.jp/scienceagora/